

城のある都市復活

福岡城だより

2018.秋
AUTUMN
No. 59



福岡城彩発見フォトコンテスト入選作品 「名残の城跡」 甲斐 満男様

文化財の保存・活用に向けて

福岡市経済観光文化局
文化財活用部長

高山 嘉樹



今年の通常国会で改正文化財保護法が可決され、6月8日に公布されました。その趣旨として、「過疎化・少子高齢化などを背景に、文化財

の滅失や散逸等の防止が緊急の課題であり、未指定を含めた文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会総がかりで、その継承に取組んでいくことが必要。このため、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方文化財保護行政の推進力の強化を図る。」とあり、文化財の保存・活用における地域社会との共働がより一層求められています。

福岡市でも、今年度から文化財部を文化財活用部とする組織改編を行い、市内における福岡城・鴻臚館を含めた文化財全般について一層の保存・活用に取り組んでいます。

福岡城についても、平成26年度に策定した『国史跡福岡城跡整備基本計画』に基づき、福岡城内の発掘調査、旧母里太兵衛邸長屋門の修復、潮見櫓の部材調査、重要文化財南丸多聞櫓の保存修理工事等を実施し、今年度は潮見櫓の復元検討にむけた発掘調査に着手したところです。また、観光資源としての一層の磨き上げやユニークベニューとしての活用など、さらなる集客にぎわい創出にむけて取り組んでいます。

これからも、地域社会の皆様と協力しながら、福岡市内の文化財の保存・活用を進めていきたいと考えておりますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

シリーズ 共働事業 3 年間の取り組みと事業報告

ATTACK THE FUKUOKA CASTLE

元気日本語文化学校 代表 カービー・理恵
ReVibe Limited 共同代表 渋谷 ひとみ

はじめに

「福岡城を世界中の人々が集う場所に」をスローガンに、「福岡城を世界へプロモーションする」、「福岡市民の歴史知識と郷土意識の向上に貢献する」、「歴史を継承していくために、語り部となれる若い人材の育成に貢献する」を目的とし、外国人と日本人と一緒に楽しめるイベントとして始まった「Attack the Fukuoka Castle」(アタック・ザ・フクオカ キャッスル)です。

平成27年8月9日から始まり、平成28年3月13日、平成28年7月24日、平成29年3月5日と、これまでに4度開催してきました。

このイベントは、福岡城内に数カ所設置された問題ポイントで、英語で記載された福岡城の歴史についての様々な謎を解き明かしながら、制限時間内に最終地点である天守台を攻めるといふ、参加者がまるでゲームの中にいるような感覚で楽しめる体験型ゲームです。参加者は外国人と日本人の混合チーム3人1組でゲームを楽しみました。

第4回目は九州大学との共同開発で問題のデジタル化を実施し、参加者はタブレットを使用し、城内に設置した問題ポイントでQRコードを読み取ると問題が表示され回答するという流れでゲームを実施する事ができました。デジタル化によりゲームの流れがスムーズとなり、今後更なるシステムの開発に期待しております。

これまでの4度の開催では、参加者から「ゲームを通して福岡城の歴史を学びながら、新しく出会った人達と福岡城を一緒に歩きまわる事が出来てとても楽しかった」という声を多く頂きました。外国人の方々と日本人の方々がチームとなり一緒にゲームを成し遂げるという楽しみ方は多くの参加者がゲームを楽しめた大きな要素となりました。

今後も、福岡城が世界中の人々が集う場所となるために少しでも貢献できれば幸いです。



シリーズ

舞鶴公園の四季「秋」

元舞鶴公園管理事務所所長 松本 伸三郎

秋を彩る植物は「ひがなバナ」といいます。「都会のど真ん中に一面に咲くひがなバナ」をテーマに、陸上競技場のスタンドの南側と西側の土手に平成二十七年から毎年二千球を職員で植え付け、空に抜ける「ひがなバナの土手」ができあがりました。黄葉がきれいないちようは園内のいたるところに生えていますが、目立つのが松木坂の並木、それと裏御門西側と藤園西側の二本の巨木です。この二本は「雌」で黄葉とともに実(銀杏)も来園者を楽しませてくれます。ところでいちようはどのくらい実がなるでしょう? テニスコートの北側の樹(高さ約12m 幹回り約1.5m)で調べたところ、十月中旬から十二月下旬までに落ちた実の総数は五万個以上ということがわかり、秋の実りの豊かさに驚きました(落ちている実を拾うことは問題ありません)。

次は鳥、秋といえは樹のてっぺんから「キキチキチキチ」と聴こえてくる「もずの高鳴き」ですね。自分の縄張りを宣言して頑張っています。もずはいろいろな鳥の鳴きまねをするので漢字では「百舌鳥」と書き、少し下手な鳴き声が聴こえたら、近くにもずがいるので探してみてください。

秋は鳥の渡りの季節です。「夏鳥」が南に帰り、「冬鳥」が北からやってくる、それと北から南への渡りの途中に日本を通過して

く「旅鳥」に運が良ければ会うことができます。平成二十八年九月、やつがしらに会えたのはラッキーでした。舞鶴公園は渡り鳥の休憩地として貴重な場所なのです。冬鳥といえばかも類。一番初めは、十月中旬にやってくる「ひとりがも」で、濠の水面に浮かぶ餌をつがいで並んで採る微笑ましい姿を観ることが出来ます。

夏と冬をつなぐ秋、いろいろな生き物の移り変わりに出会うことができます。舞鶴公園へぜひお出かけください。



ヒガンバナ：陸上競技場西法面



イチョウ：テニスコート北側



モズ：陸上競技場東側



福岡城市民の会歴史探訪バスツアー 「明治維新150年・西郷どん・ゆかりの地を訪ねて！」



本年は、NHK大河ドラマ「西郷どん」放映にタイミングを合わせた、鹿児島城下の「西郷隆盛ゆかりの地」を巡るバスツアーを実施しました。
当日は、通常の観光旅行だけではなく、幕末における筑前・薩摩両藩の事績や、尊皇思想の強い「平野國臣」&「西郷隆盛」ゆかりの地を訪ね「ここがそうだったのか!」とご参加の皆さんは、知る喜びを共有されておられました。

【実施日】平成30年6月2日(土)〜3日(日)

【1日目】

加治屋町・西郷隆盛生誕地―維新ふるさと館
―照国神社―島津斉彬公像―西郷隆盛像―
城山薩軍本営跡―西郷洞窟―西郷隆盛終焉地
―私学校跡

【2日目】

西郷南洲顕彰館・南洲墓地―仙巖園(尚古集成館)―月照・西郷入水の地―西郷蘇生の家―
龍門司坂(加治木)―平野國臣歌碑・有馬新七
生誕の地(伊集院)―武村の西郷屋敷跡

幕末、筑前藩十一代藩主黒田長溥公は、薩摩藩十一代藩主島津斉彬公の大叔父にあたり、幼少の頃より兄弟のように仲が良く互いに密接な関係が築かれていました。特に長溥公は、嘉永三年(1850)に徳川幕閣や有力大名への斉彬公の早期藩主就任の運動や、薩摩藩士の斉彬派4人の筑前藩潜入保護など、斉彬公の薩摩藩主実現に努力します。

両藩のなかで、関係の深かった「平野國臣」と「西郷隆盛」を中心に藩主斉彬公時代と国主久光公時代に別けて考察します。

◆薩摩十一代藩主島津斉彬公の時代

薩摩十代藩主斉興公の長男斉彬公は、嘉永四年(1851)二月一日薩摩十一代藩主に就任。

一、嘉永四年(1851)春、筑前藩士「平野國臣」は、宗像大社中津宮普請方として宗像郡大島に赴任します。そこで、薩摩藩の家督騒動に関わり筑前藩に匿われている四人の一人「北条右門」と知り合います。この二人

の出会いが、後の平野と西郷の「尊皇倒幕・国家統一」の運動に結びついて行きます。

二、安政元年(1854)薩摩藩主島津斉彬公は参勤交代の途上、筑前領内の長崎街道飯塚駅にて筑前藩主黒田長溥公と久方ぶりに会見します。議題の一つに「日の丸と筑前茜染」があったのではないかと想像されます。

三、国旗「日の丸」の最初の染め色は「筑前茜染」だった!

斉彬公は、安政元年(1854)薩摩洋式軍艦「昇平丸」の艦尾に総船印として「日の丸」を考案する際、筑前藩主黒田長溥公へ頼み筑前茜染(現飯塚市山口茜屋)にて「日の丸」を染めたと言われています。(現在鹿児島県照国神社の宝物殿にその模型が展示されています)

◆薩摩十二代藩主島津忠義公と 国父島津久光公の時代

安政五年(1858)七月十六日斉彬公急逝により、元十代藩主斉興公が藩の実権を握りますが、安政六年(1859)に逝去。幕府は忠義の父久光公を藩政補佐に任じます。以後薩摩藩では「国父・久光公」と呼ばれ藩の実権を握ります。

一、安政五年(1858)十月、安政大獄から逃れるため、西郷は僧月照を博多の北条右門に託し薩摩藩との事前協議のため薩摩に先行します。北条はもともと西郷と親交のあった福岡藩士「平野國臣」に僧月照の薩摩同行を頼みます。

二、安政五年(1858)十一月十五日、薩摩藩は月照の保護を拒否。平野・西郷・月照と薩摩藩監視役坂口が藩所有の屋形船で出

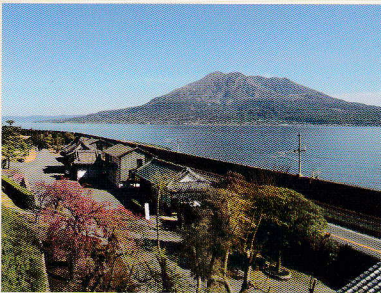
港。藩命「月照の日向送り」に絶望した西郷は10キロ先の錦江湾で月照を抱き入水をはかります。平野が「早く船を止めろ!」と叫ぶが、船は帆船で止まらない。即座に平野は腰の脇差を抜き綱を切って帆を下ろし強引に船を止めます。二人の身体が海面に浮かび上がってきます。近くの浜辺に上陸。漁師の家に担ぎ込み蘇生を施すが西郷だけが生き返ります。依頼、平野と西郷は前にもまして腹を割って話し合える関係となります。

三、入水後、西郷は残りの人生を「土中の死骨」として生きます。一度死んだが身、常に死を覚悟し信義を貫いた生き方をし、他の人間には思いもよらない行動をするようになりま

四、万延元年(1860)十月、平野國臣は薩摩藩主へ「幕府滅亡・国家統一」を訴えたいと再び薩摩に入ります。伊集院の坂本六郎家(有馬新七誕生地)の裏山の頂上に登り、日中桜島山を

眺みつけ、次の詩を吟じ大久保からの伝言を待ちます。

我胸の
燃ゆる思ひに
くらぶれば
煙はうすし
桜島山



© 鹿児島市

福岡城ガイドツアー

福岡城「東・西・南・北」城下町巡り

西コース：11月11日(日) 10時〜12時

唐津街道の福岡で一番古い唐人町商店街や近隣の古寺などを巡る

東コース：11月25日(日) 10時〜12時

上ノ橋より東へ、大名町・中堀跡・肥前堀跡・天神ノ丁を経て西中洲へ

南コース：12月2日(日) 10時〜12時

お城の南側、かつての軍事基地・赤坂山一帯を巡る

北コース：12月9日(日) 10時〜12時

荒津山(西公園)には黒田家ゆかりのお話が沢山あります

参加費 参加者1名につき500円

(小学生以下は無料)

集合場所 西コース 唐人町駅7番出口の地上

東コース 福岡城むかし探訪館

南コース 北コース 三の丸スクエア

申込お問い合わせは福岡城市民の会まで

福岡城のガイド募集

高い石垣、天守台からの素晴らしい眺め・・・広い福岡城をテクテク歩き、四季を感じながら、大きな声で「えーと・・・」と語るガイドの醍醐味!

この度、福岡城市民の会ではボランティアガイドを募集します。福岡城が好きで、博多・福岡の歴史に興味がある人、ガイドをしてみたい人、日々の生活に何かやりがいを見つけた人、福岡城と一緒に案内してみませんか。

「興味はあるけど自信が無い」「あまり勉強したことがない」という人も心配ご無用、ベテランガイドと学びあい、週に一回学習する機会も設けています。

*主なガイドの内容

市民の方や観光客の皆様に福岡城や鴻臚館をご案内します。福岡城下町をブラッと歩いてのガイドもあります。「さくら祭り」「藤祭り」などでは多聞櫓や伝潮見櫓、下之橋御門などを公開し訪れた方にご案内をします。コースやテーマをガイド仲間と話し合うのも楽しいです。

*応募のご相談・連絡先

事務局：NPO法人 福岡城市民の会
(最終ページをご覧ください)



第11期福岡歴史観光市民大学は、7月2日に開講、9月10日までに前半10回(全20回)の講義が終了しました。

開講式冒頭、石井幸孝学長(当会理事長)から次のような挨拶がありました。お蔭さまで11年目を迎えました。熱心な受講者の皆さまと素晴らしい講師のご協力の賜です。受講の方々も幅広くなり、最後は定員でお断りするくらいでした。今年は明治150年ですし、また九州と縁の深い「朝鮮通信使」が世界記憶遺産に登録されましたので、講義内容にも配慮しています。運営につきましては事務局の奉仕的な取り組みですので、皆さまのご協力をお願いします。

今号では第1回から第10回までの講師と講義のテーマを紹介し、講義の簡単なまとめ、または受講者の感想や学長・事務局員の所感を簡単に付け加えます。(敬称略。感想は聞く人によって様々だと思いますので、一端のご紹介とご理解ください。)

第1回 石瀧豊美 明治維新と福岡

幕末と明治維新の福岡藩の揺れ動く挙動は、苦しい事情があつてのことで、明治期後半では旧福岡藩士達が国家のために多く活躍しました。

第2回 藤田紫雲 東長寺・藩主菩提寺と五重塔

筑前国続風土記に記されている東長寺の表の歴史のみならず、東長寺の知名度が高くなかった頃、五重塔と福岡大仏の建立までの裏話まで、ご住職の東長寺に対する思いが伝わってきました。

第3回 寺田蝶美 筑前琵琶を楽しむ

「那須与一」から新作の「桧原桜」まで、毎年受講されている「常連」の方をも飽きさせない生演奏で楽しませていただきました。桧原桜は福岡市民にはよく知られる話で、反響抜群でした。

第4回 伊藤嘉章 茶の湯の器・茶碗考

茶の湯での「茶碗」の役割に始まり、産地による分類、和物の展開の歴史を聞いた受講者の方から「茶道を教えているが、知らない話もあり興味深かった」との感想がありました。

第5回 福田千鶴 黒田藩主の素顔

黒田家の系図を傍らに、「初代長政は…」と11代まで、藩主の肖像画を映しながら、出自や功績などを年代順に話してくださいました。「200年以上の歴史を一気に学習した気分でした」

第6回 木川りか 文化財の保存と修復の考え方と実践

文化財修復の現場の写真を交えながら、専門的な仕事の内容を分かりやすく説明していただきました。文化財保存の大敵藻類とカビ類の話は愛情があるのではと思うほど熱かったです。

第7回 足立憲一 香椎宮の縁起と祭典

神功皇后ゆかりの由緒ある神社でありながら、案外市民に知られていない香椎宮の歴史について話していただきました。地域と共存しつつ観光にも力を注がれています。雅楽保存会による「迦陵頻」の披露もあり、「初めて見た」「素晴らしかった」と拍手が鳴り止みませんでした。

第8回 西谷 正 古代・中世の国際海路の変遷

対外交渉の歴史を考察する際、船は重要な手段ということで、船の構造の進化に絡めて、日本とアジアの政治関係を解説していただきました。石器時代から鎌倉時代まで壮大な時の流れがコンパクトに理解できました。

第9回 錦織亮介 仏像-教理上の性格と姿の特徴

目にする機会が多い仏像ですが「如来と菩薩の違いを初めて知った」の感想もありました。スライドに映し出される如来像、菩薩、不動明王などには、実際に拝観している錯覚に陥りました。

第10回 千 相哲 福岡観光の実態と未来戦略

統計の数字で見る現状の分析と今後の課題についての講義に「(福岡の観光事情について)色々な機会に色々な立場の人から話を聞いた。今日の千先生の話が一番わかりやすかった」と受講者の声でした。



第2回 講義風景



第7回 香椎宮雅楽保存会による「迦陵頻」

編集後記

夏の猛暑が過ぎた後には台風が次々と…自然の脅威を感じます。

190年前、九州北部を襲った「文政の台風」では博多湾などにも高潮が発生し、多くの被害が出たそうです。福岡城は標高20メートル以上もあり、40万㎡以上の広さが残っています。ぜひ一度、散策をしながら天守台跡の展望台からの眺めをご覧ください。

今回の表紙は多聞櫓下西側の石垣と菖蒲園の写真です。秋を満喫してください。

編集・発行

NPO法人:福岡城市民の会

〒810-0042

福岡市中央区赤坂1-12-15 読売福岡ビル7階

TEL 092-716-8238 FAX 092-716-8254

HPアドレス <http://fukuokajokorokan.info>

E-mail staff@fukuokajokorokan.info

[デザイン・印刷] 城島印刷株式会社

福岡城市民の会

検索

株式会社ロコプロダクション
舞遊の館

新規会員を募集しています。ご入会お待ち申し上げます。

前田道也 浅山 湜

正会員(団体)

一般会員(個人)

新規会員名簿

(平成30年9月30日現在(敬称略))

報告 第4回文化人・経済人交流納涼会

— 9月6日「うちそうダイニングなつ花」にて開催 —

当会主催のこの交流会も4回を迎えました。福岡城市民の会の会員の交流はもとより、まだ会員でない方々もお誘いし、歴史や文化を話の糸口に、交流を深めようという趣旨で企画しています。

文化人、企業の代表者、政治家、福岡歴史観光市民大学の受講者など、様々なバックグラウンドを持つ皆様に「参加いただきました。開始から半時間ほど経った頃、ハイライトである新開裕司さんの歌声が会場に響き渡りました。ザルツブルグモーツァルテウム音楽院においてコンサート出演の経験もある本物のテノール。夫人との二重唱「乾杯の歌」と「Time to say goodbye」には一同魅了され、早々と「今後の交流会にもぜひ」とのリクエストが。会の後半は、テーブルの同席の方と親交を深めるグループ、名刺を片手にビジネストークをするグループ、テーブルからテーブルに流れる方、まさに「交流」そのもの。おいしい食事の周りには人が集まり、人が集まれば、何か新しい事、楽しい事が生まれる。次の交流会が楽しみです。

